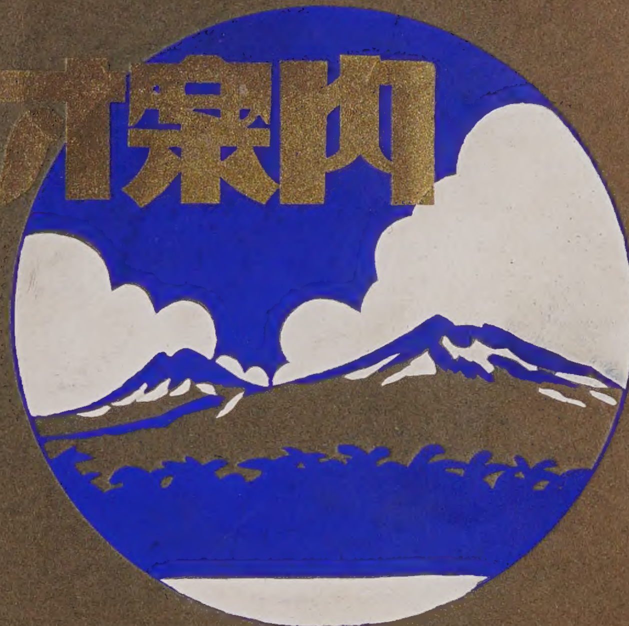


ダバオ案内



中野寫眞館發行
比律賓 ダバオ ダリアオン

July 25, 1929

To the Chief Officer
S.S. "JAPANESE Prince"

改 訂 増 補

ダ バ オ 案 内

中野寫眞館發行

比律賓・ダバオ・ダリアオン

發　刊　の　辭

最近日本では人口の激增に伴ない食料問題や生活難等の諸問題に逢着して海外移住を力說する者多いに拘らず最も手近にあつて而も土地豐饒、氣候適順、生活簡易にして收入多く頗る有利な富**ダバオ**州が今日まで餘り多く知られてゐないのは甚だ遺憾とする處であります。

弊館玆に視るところあり曩にダバオ寫眞帖を編輯し、題して Here's Davao The Promised Land とし發賣致しましたところ幸ひに江湖の好評を博し忽ちにして第二版を賣り盡しました。

依つて第三版を重ぬるに當り改訂增補の必要を感じ材料蒐集中でありましたところ恰も時を同じうして類似品の發賣せらるゝに逢ひ、彼此混同の恐れがありますので屢く刊行を見合せましたが、其後諸氏の御援助に依り詳細なる地圖及案內記を蒐錄して面目を一新し「ダバオ案內」と改題して出版することに致しました。隱れたる富源開發の一助ともならば幸福であります。

今回特に記事其他に就き甚大なる御好意と御援助とを賜はりました諸家に對し深厚なる敬意を表する次第であります。

昭和三年三月一日　　　　　於ダバオ

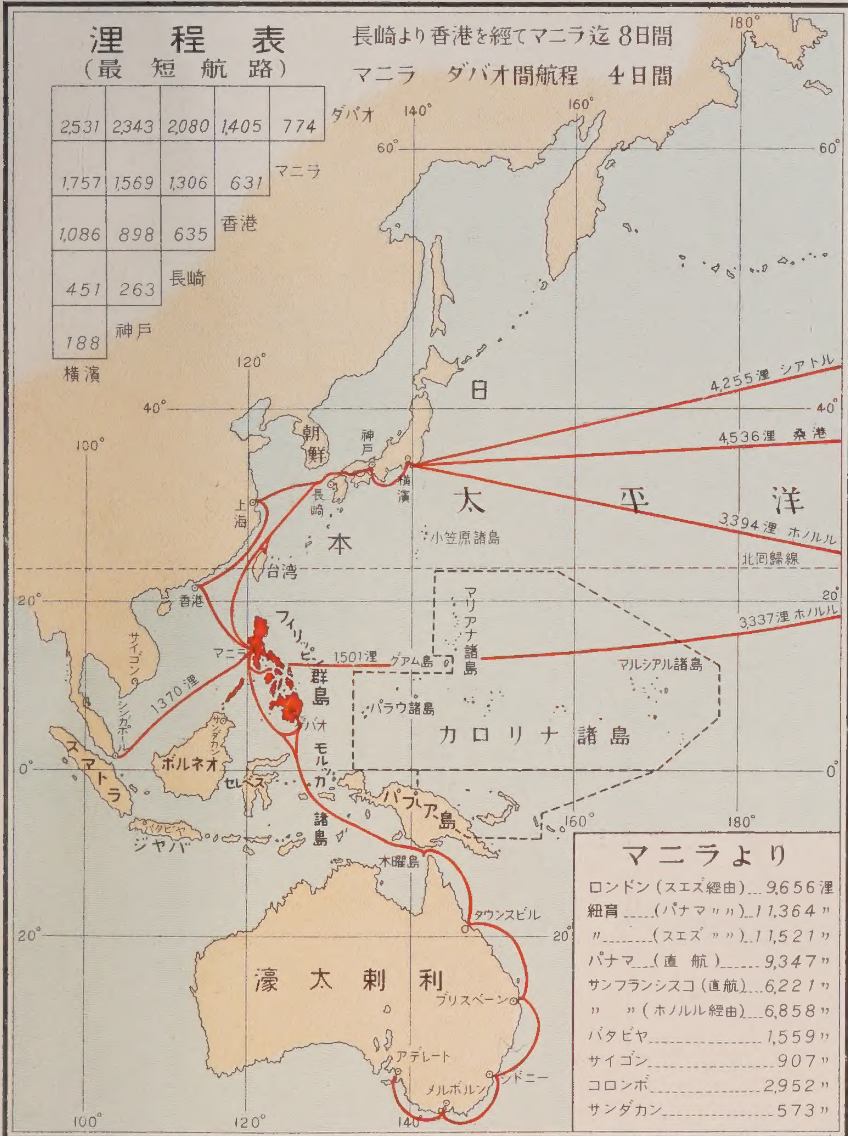
中野寫眞館主識す

目　　次

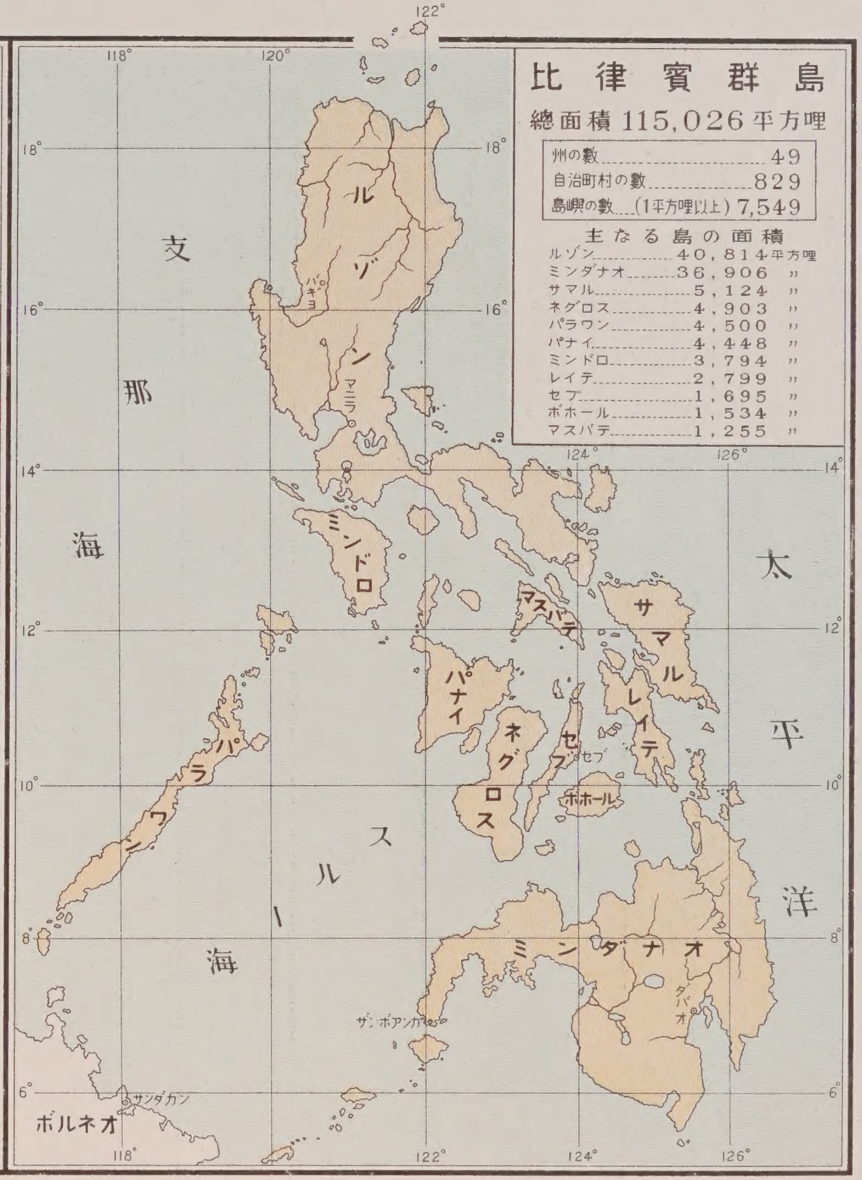
ダ　バ　オ　事　情

附　　錄

——目次終り——



浬程表
（最短航路）
長崎より香港を經てマニラ迄 8日間
マニラ　ダバオ間航程　4日間
ダバオ　2531　2343　2080　1405　774
マニラ　1,757　1,569　1,306　631
香港　1,086　898　635
長崎　451　263
神戸　188
橫濱
4,255浬 シアトル
4,536浬 桑港
3394浬 ホノルル
3,337浬 ホノルル
1,501浬
1370浬
日本
太平洋
朝鮮
上海
長崎
神戸
橫濱
小笠原諸島
北回歸線
台湾
香港
サイゴン
シンガポール
マニラ
フィリッピン群島
グアム島
マリアナ諸島
マルシアル諸島
パラウ諸島
カロリナ諸島
ダバオ
モルッカ諸島
サンダカン
ボルネオ
セレベス
スマトラ
バタビヤ
ジャバ
パプア島
木曜島
タウンスビル
濠太剌利
ブリスベーン
アデレート
シドニー
メルボルン
マニラより
ロンドン（スエズ經由）9,656浬
紐育（パナマ〃〃）11,364〃
〃（スエズ〃〃）11,521〃
パナマ（直航）9,347〃
サンフランシスコ（直航）6,221〃
〃　〃（ホノルル經由）6,858〃
バタビヤ 1,559〃
サイゴン 907〃
コロンボ 2,952〃
サンダカン 573〃



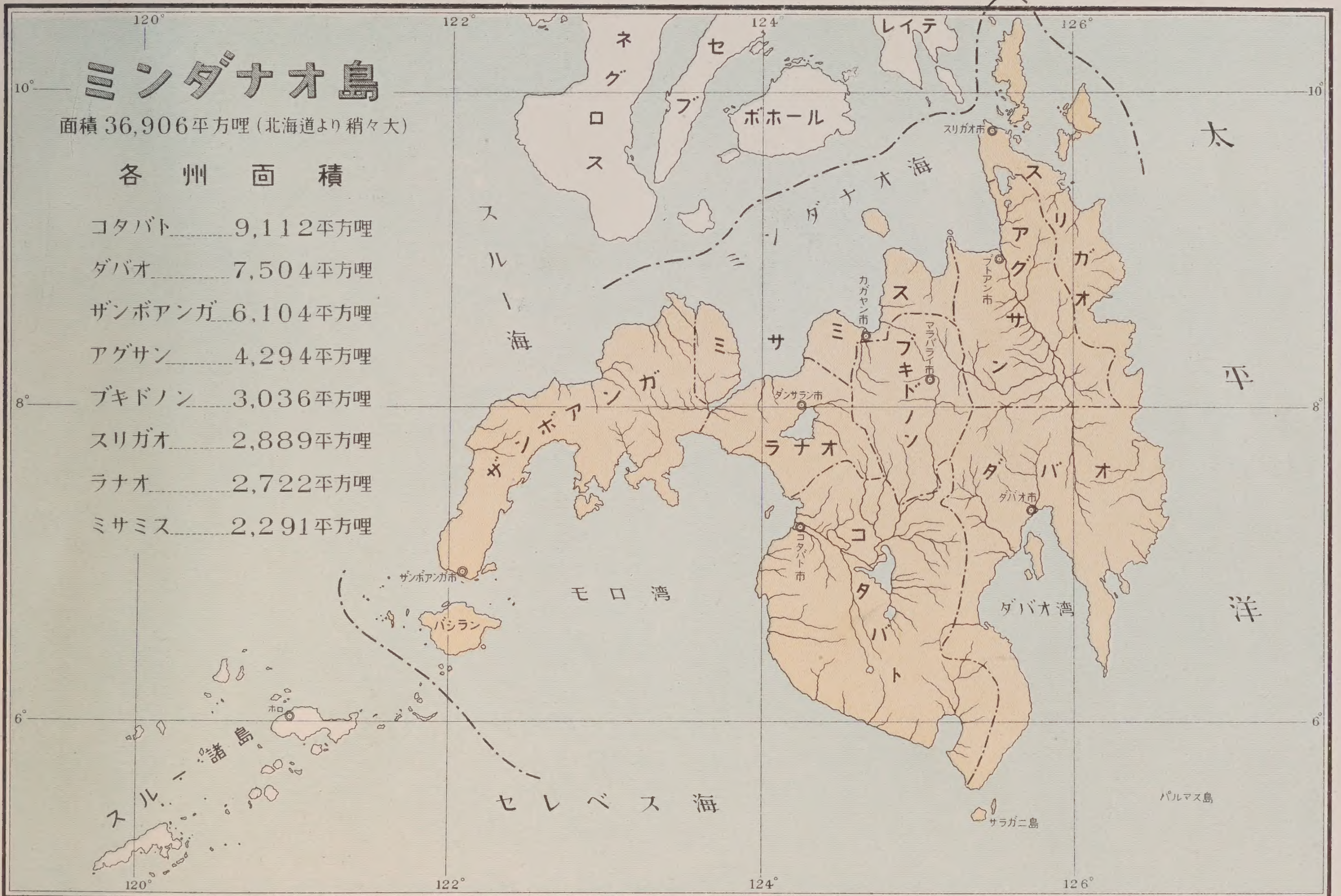
比律賓群島
總面積 115,026 平方哩
州の數 49
自治町村の數 829
島嶼の數（1平方哩以上）7,549
主なる島の面積
ルゾン 40,814 平方哩
ミンダナオ 36,906 〃
サマル 5,124 〃
ネグロス 4,903 〃
パラワン 4,500 〃
パナイ 4,448 〃
ミンドロ 3,794 〃
レイテ 2,799 〃
セブ 1,695 〃
ボホール 1,534 〃
マスバテ 1,255 〃
支那海
スルー海
太平洋
ルゾン
バギヨ
マニラ
ミンドロ
マスバテ
サマル
パナイ
ネグロス
セブ
レイテ
ボホール
パラワン
ミンダナオ
ダバオ
ザンボアンガ
サンダカン
ボルネオ

ミンダナオ島

面積 36,906平方哩（北海道より稍々大）

各州面積

コタバト	9,112平方哩
ダバオ	7,504平方哩
ザンボアンガ	6,104平方哩
アグサン	4,294平方哩
ブキドノン	3,036平方哩
スリガオ	2,889平方哩
ラナオ	2,722平方哩
ミサミス	2,291平方哩




ダバオ州地圖
ダバオ プロビンス
ブキドノン プロビンス
コタバト プロビンス
ダバオ灣
太平洋
縮尺
1:1,200,000
面積……7,504 平方哩
(我四國ヨリ稍々大)
州廳所在地
郡役場所在地
村役場所在地
部落
州境界
郡村境界
ダバオ市街地圖
1:45,000
サンタアナ街道
ダバオ灣
サマル島
マテ灣

Selected Views of Davao

ダバオ市街及其附近

氣候及風土病に就いて

ダバオを知らんとする人は必ず先づ第一に氣候及風土病に就いて問ひを發するのが常である。

多くの人は單に熱帶地と聞く丈けで直ちに瘴癘蠻雨を想像し、其暑氣を甚だしく誇脹して考へる爲め誤解され易しいのは誠に遺憾である。

此地方は卷末にも記せる如く、熱帶圈內にあれども一年を通じて暑氣甚だしからず誠に凌ぎよい。温度は華氏六十八度乃至八十五度で九十度以上に昇る事は稀れである。一年を二分して乾雨兩期に分つも雨量の差尠なく平均し、マニラ邊の如く截然たる區別はない。雨期と雖も日中の降雨は稀れで、戸外勞働に適し、夜に至れば熱帶地獨特の驟雨沛然として至り、涼味快適、一日の勞苦を癒するに充分である。夕食後ベランダの椅子に身を横たえ、爽快なる雨の音を聞き乍らいつしか醉陶にも似た境地に入る其すがすがしい納涼氣分は、蓋し南洋に非ざれば味ふ事の出來ないものである。而して此驟雨は殆んど毎日あるから、飲料水は此清淨なる天水を以てし些の不自由を感じない。

尙新渡航者に意外の感を起さしむる事は、此地方熱帶地であるに拘らず扇、團扇等は全然不要で毛布や冬シャツ等の必要な事である。卽ち前者は此地方絶えず適當の微風ありて汗を拭き去るからで、後者は夜中寢冷えの恐れあるからである。

風土病としてはマラリヤ丈けであるが今日では極めて少くなつた。此病氣に罹るのは新渡航者が土地の事情に應じて養生法を守らないからで、蚊に喰はれぬ事と雨に濡れた後を注意すれば決して恐るゝに足らない。又此地方のマラリヤは惡性でないから、よし罹つても其初期に於てキナエンを時間正しく服藥すれば必ず全治するので殆んど問題とするに足らない。

ホセ・リザール　(1861—1896)

宗教學校アテネオの出身で歐羅巴に留學し比律賓の獨立を企て一八九六年(明治二十九年)十二月西班牙政府の爲めに死刑に處せられた名高い愛國の志士で比島到る處に其記念像がある。米國政府は特に此日を「リサール・デー」として一般の記念日としてゐる。

現行の紙幣及郵便切手等にもこの人の肖像を描いてゐる



Davao dedicates monument to Rizal

リザールの像

Davao Provincial Govt. Building

ダバオ州政廳

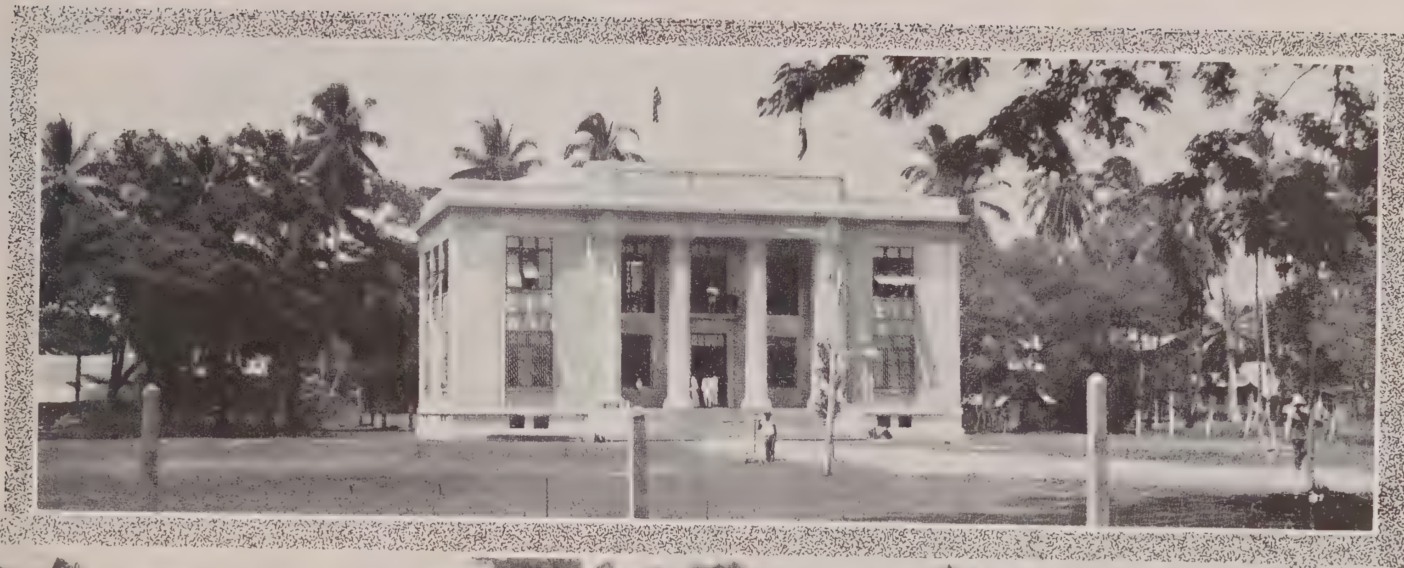




Davao Japanese Consulate

ダバオ日本帝國領事館

ダバオ市役所





ダバオ川の渡し

日本人小學校



比島人小學校





憲兵隊兵舍



The Port of Davao

ダ バ オ 港



Avenue leading to port area
ダバオ市街　其一



The Torch of Liberty
ダバオ市街　其二

Jone's Memorial Monument　ダバオ市街　其三





Davao's sky-scraper

アワツビルデイング



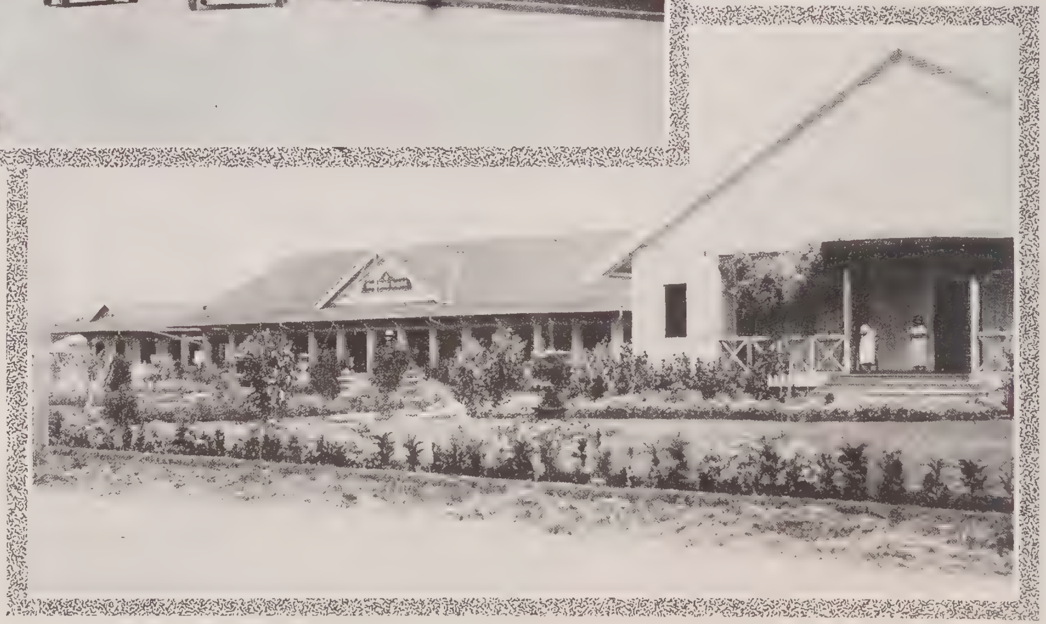
Davao Convent and bell-tower

ダバオ市街　其四



Davao's main throughfare

ダバオ市街　其五



The Davao Public Hospital

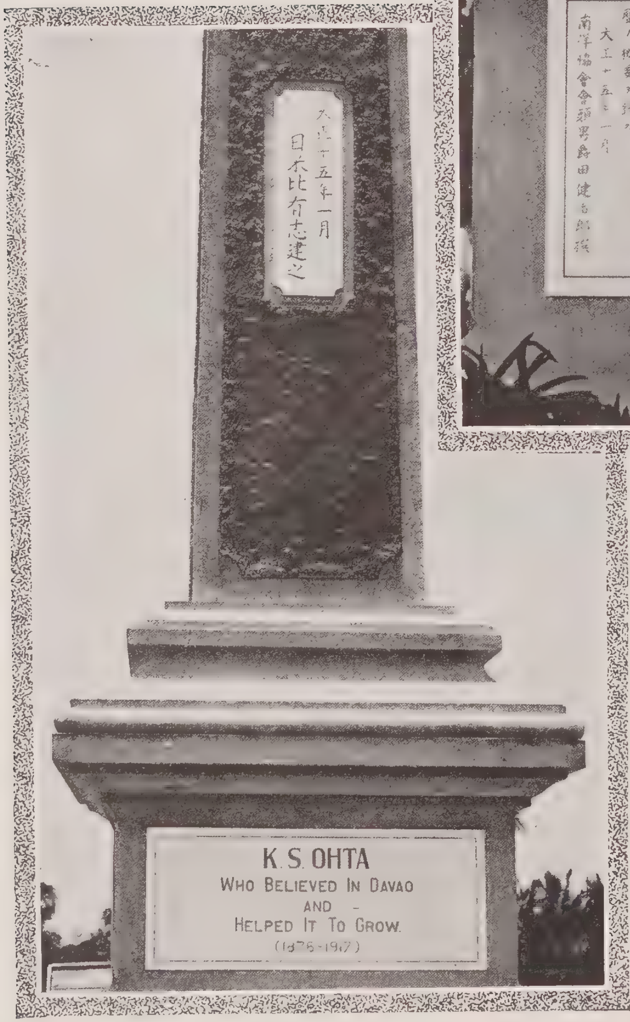
ダバオ公立病院

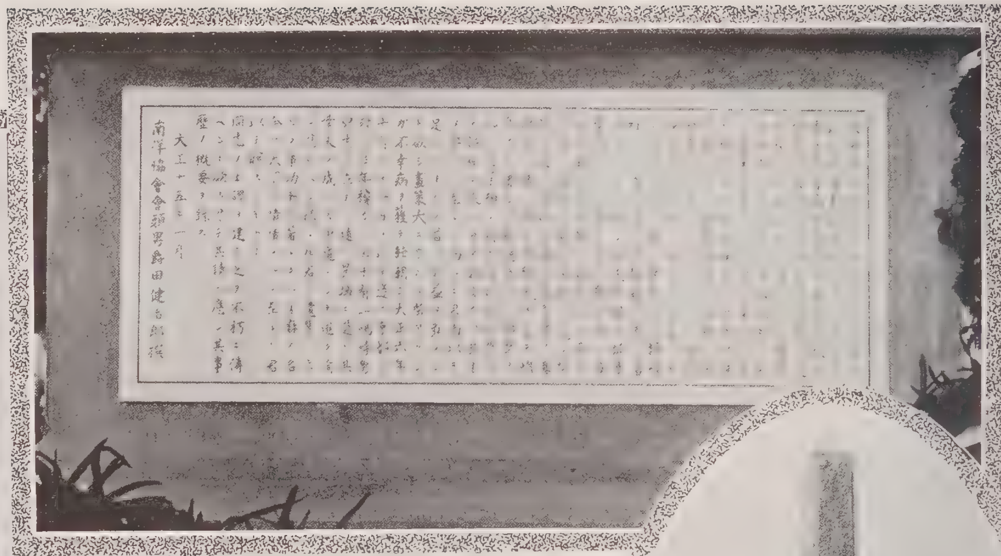
The O. D. C. wharf
at Talomo
太田會社棧橋





Talomo, where the
O. D. C. is located
太田興業株式會社タロモ本社







Memorial Monument
to K. S. Ohta
太田恭三郎氏記念碑
(在ミンタル)



Daliaon, The F. P. Co. Headquaters

ダリアオン古川拓殖株式會社



Seashore of Davao Gulf

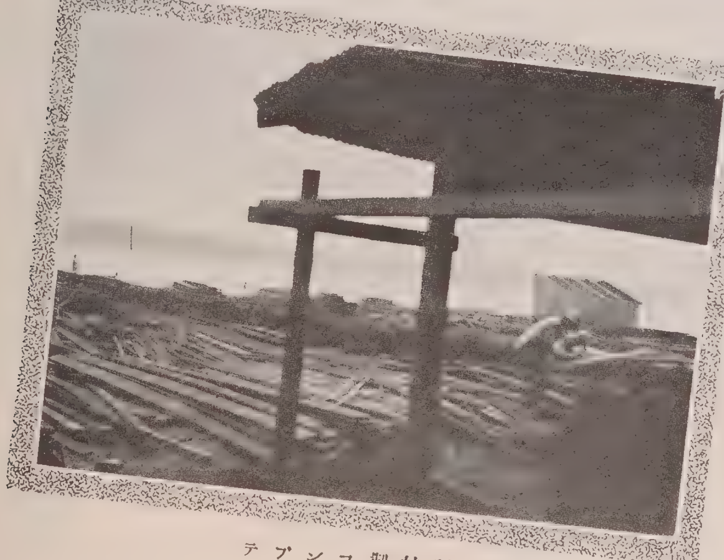
附 近 海 岸

ドムイ海岸



タロン海岸





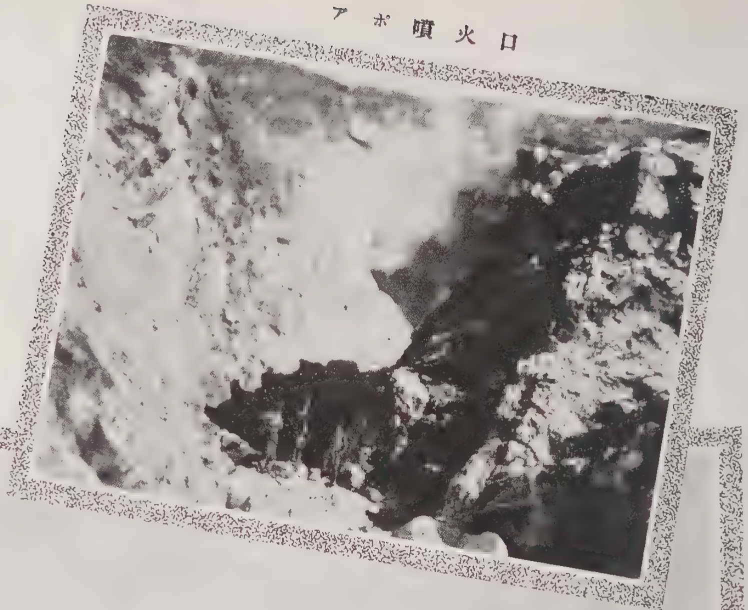
テプンコ製材所



海岸の小部落（日本人雑貨店）



アポ登山



アポ噴火口

タワヤン海岸より徒歩廿四時間にして頂上に達す七合目に温泉あり



ダリアオン海岸よりアポ山を望む　比律賓第一の高峯海抜一万〇二百八十呎

Planting Davao Hemp

マニラ麻の栽培

マニラ麻とバダオの日本人

南北に長い比律賓群島の兩端に略ぼ大いさを同うする島がある、北にあるのは首府マニラ市のある呂宋島で、南にあるのはマニラ麻の好産地ミンダナオ島である。此島の大きさは我北海道より稍大で人口八十萬人、八州に分たれダバオ州も其一つで面積我四國より稍廣く人口十二萬人である。(四國の人口三百餘萬人)。

此ダバオの町を中心として灣内の沿岸に居住して居る日本人の數は約七千人で主としてマニラ麻の栽培に從事してゐる。初めダバオの町は眇たる一漁村に過ぎなかつたが、現今では人口一萬五千人、海岸には棧橋も出來、町には活動寫眞館もあり、又帝國總領事館の分館や、或はタバオ栽培協會とかダバオ日本人會とかいふ様な社會的團體公館及日本人小學校等も出來、殊に大正拾五年一月開港場となつてからは一躍貿易港として重要なる地位を占める樣になつた。

マニラヘンプ(Manila Hemp)と云ふのは土語**アバカ**と稱し日本人はマニラ麻と呼んでゐる。麻と云つても日本にあるものとは全く別種のもので芭蕉の種類である。素人には一見した丈けでアバカと芭蕉とは區別が付かぬ程酷似してゐる。此植物は葉が大きくて風には弱いと同時に絶えず適當の濕度と水分とを必要とする。ダバオは實に此要件に最も適した土地であつて、他の諸州に比し最良質の麻を生産する。又此植物は印度、瓜哇、南米等に移植して栽培を試みたが發育不充分で商品として取扱はるゝ程度の纖維が得られず、結局各所の試作は失敗に歸し、今では世界中で比律賓群島の特産物となつてゐる

マニラ麻生産の工程は頗る簡單なもので、葉を切り倒して皮を剝ぎ此皮を刄物と木の臺の間に押へ附けて抜き取れば纖維が殘り之を天日に乾かせばよいので、朝に切り倒して抜き取つたものは夕方までに乾いて立派な商品となる。

マニラ麻は纖維が丈夫で水中に用ふるも耐久性强きが爲め船舶用の綱として重用せられ、マニラロープの名夙に顯はれてゐる。此外高級品は麻眞田となし主として婦人帽子の原料となり、下級品は日本紙の原料となる。

抑々ダバオに於けるマニラ麻栽培の濫觴は明治三十七年太田興業株式會社前社長故太田恭三郎氏が開墾したのに始り、其後續々日本人が之を植付けて今日の盛況を來し、年産四十萬擔(ピクル)以上に達してゐる。此大半は日本人の手に依つて生産せられ麻栽培の實權を握つてゐる。此地方の日本人が鄉里への送金は年約百五十萬圓に達してゐる。

麻耕地內の日本人家屋



ミンタル日本人小學校



パト會社



ミンタル太田病院



バヤバス會社



原 始 林 の 開 墾



Felling a King of Forest

柵木伐り



Clear away by burning

開墾焼拂ひ



Conquest of the wilderness

新開墾地



New growth supplants the jungle

植付後五ヶ月目の麻



Plantation commencing to flourish

植付後十ヶ月の脈



Fiber in the stalk

成 育 し た 麻



Stripping fibrous skin from the pith

タクシ

(麻の皮剝さ)



Cutting stalk for the Prieto Machine

プリエト マシン の タクシ



Harvest Time

トンパ

(成熟せる麻の切倒し)



The old way of decorticating hemp

痲の手挽き　其一



Man adds weight to strength

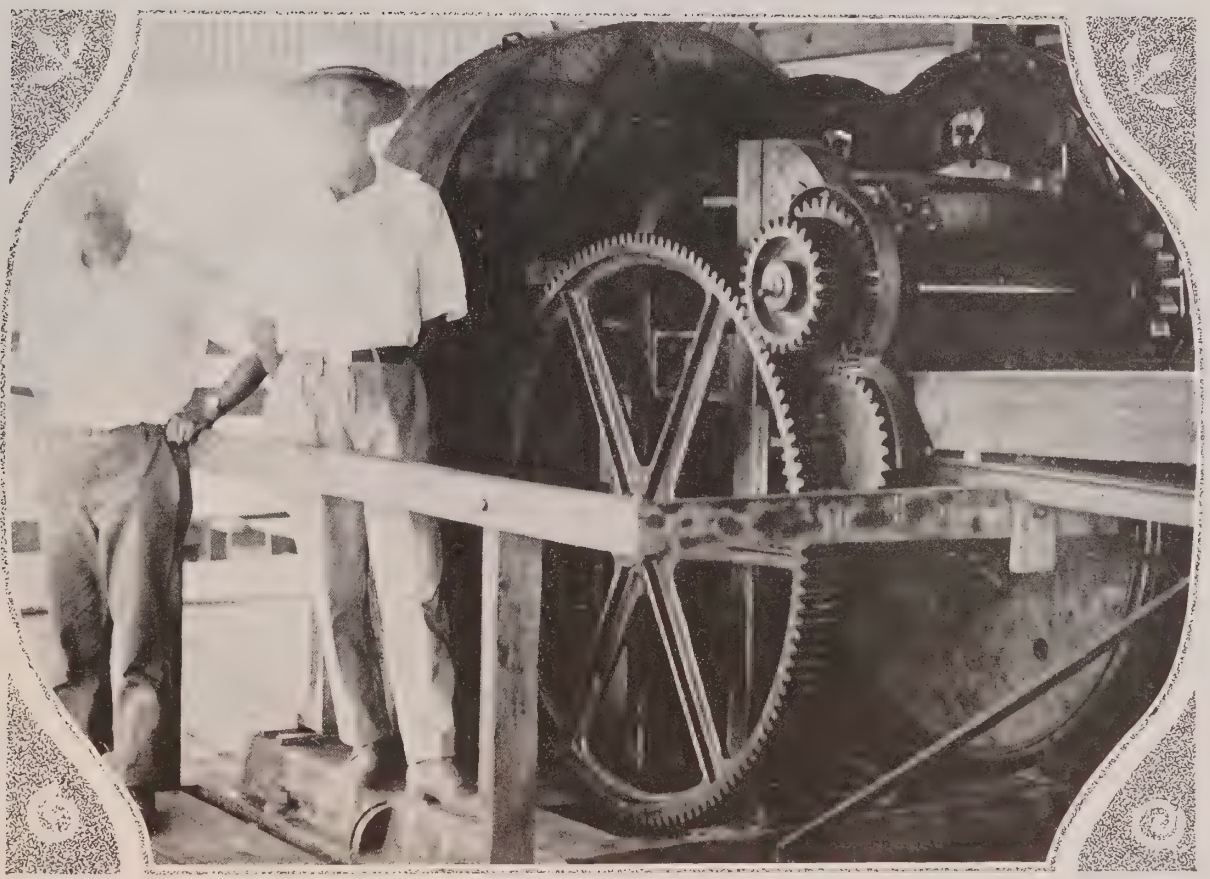
痲の手挽き　其二



Machinery supplanting man-power
普通機械挽き　其一



Latest type of stripping machine
普通機械挽き　其二



Prieto Decorticating Machine
プ リ エ ト マ シ ン
（新 式 麻 挽 機）



Drying fiber under tropical sun

麻 の 乾 燥



プリエトマシンに依る機械挽き麻の乾燥

Modern method of Transportation
麻の運搬　其一



Transportation to market, the old way
麻の運搬　其二





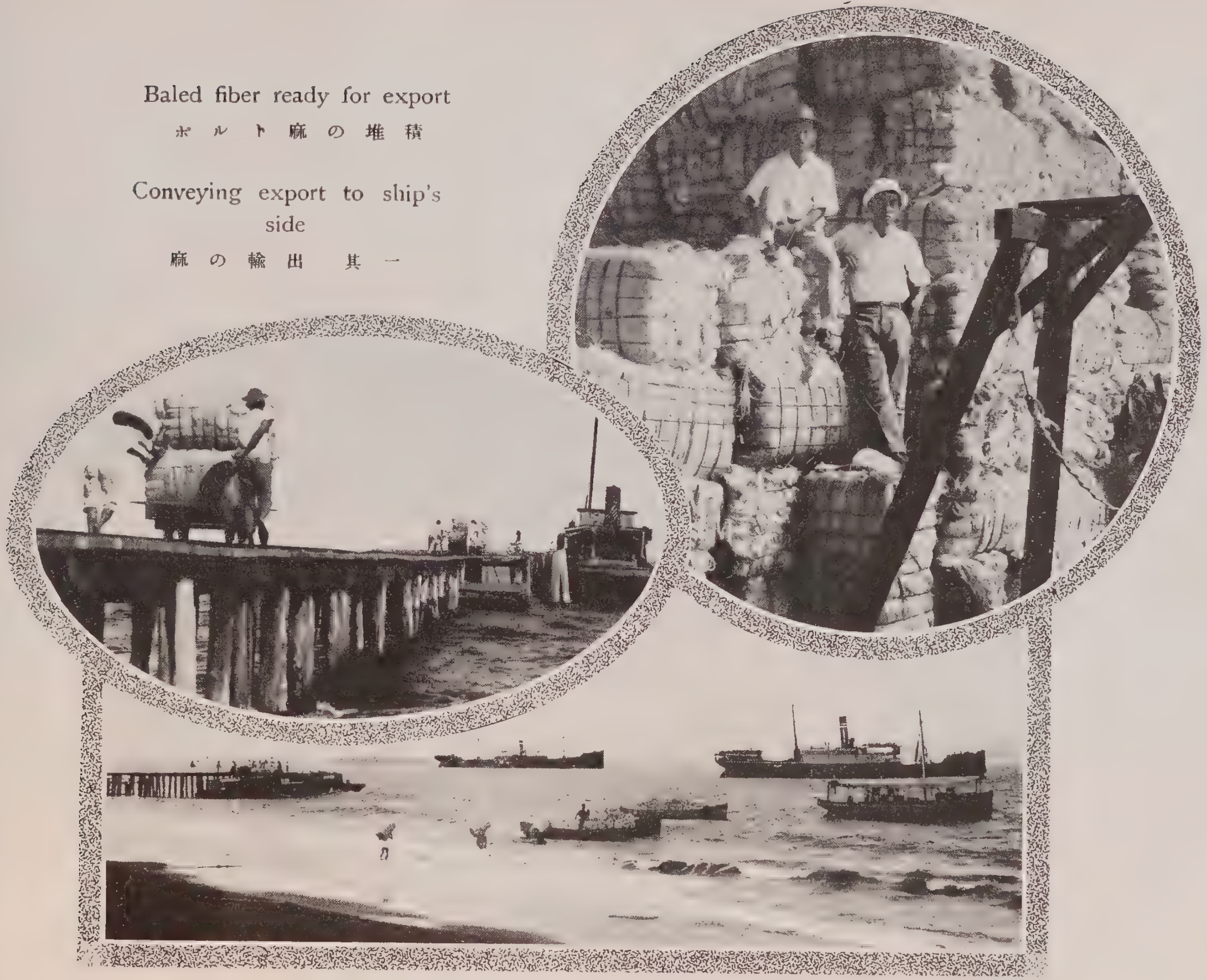
Shipping fiber to the press
麻の運搬　其三

Baled fiber ready for export

ボルト麻の堆積

Conveying export to ship's side

麻の輸出　其一



Fiber from Plantation to Mill

麻の輸出　其二



Pressing fiber for baling

麻 の ボ ル ト

Planting Davao Coconut

古々椰子の栽培

古々椰子 (Coconut)

果樹の王と稱せられ利用範圍極めて廣く收益大にして而も其風致亦美觀を呈し、南洋旅行者に忘るべからざる印象を與ふるものはこの古々椰子である。單に椰子と稱する時は其種類甚だ多きが爲め、他の椰子と區別する爲めには古々椰子と云ふべきで、此島人は單に之をココと呼んでゐる。我々日本人が一般に椰子と稱へてゐるものは凡て此古々椰子の事である。

椰子は海岸に適し、植付後五年から七年目位で結實し、四十年頃が最も盛んな時期で、壽命は七十年から百年以上と云はれてゐる。未熟の果實から採る汁液は其味サイダーに似て甘酸相和し絶好の清涼飲料である。熟果は之を割つて白色の固い果肉を取出し、乾燥してコプラとなし、椰子油、香料、石鹼、蠟燭、バタ等の原料となる。就中椰子油は南洋土人の日常缺くべからざる食用調味品であり、これより製する石鹼は鹼化作用速かで且つ鹽水に溶解する特性を有してゐるから廣く用ひられてゐる。

尙ほ土人は花芽を切りて湧出する液汁を竹筒に採り、之を樹上に蓄へて自然に發酵させ、トバと稱する一種の酒を醸し、又酢を造る。共に土人の好んで嗜む所である。



Scientific germination of seedlings

占々椰子の苗



Setting out new plantations

植付後二ヶ年目の椰子



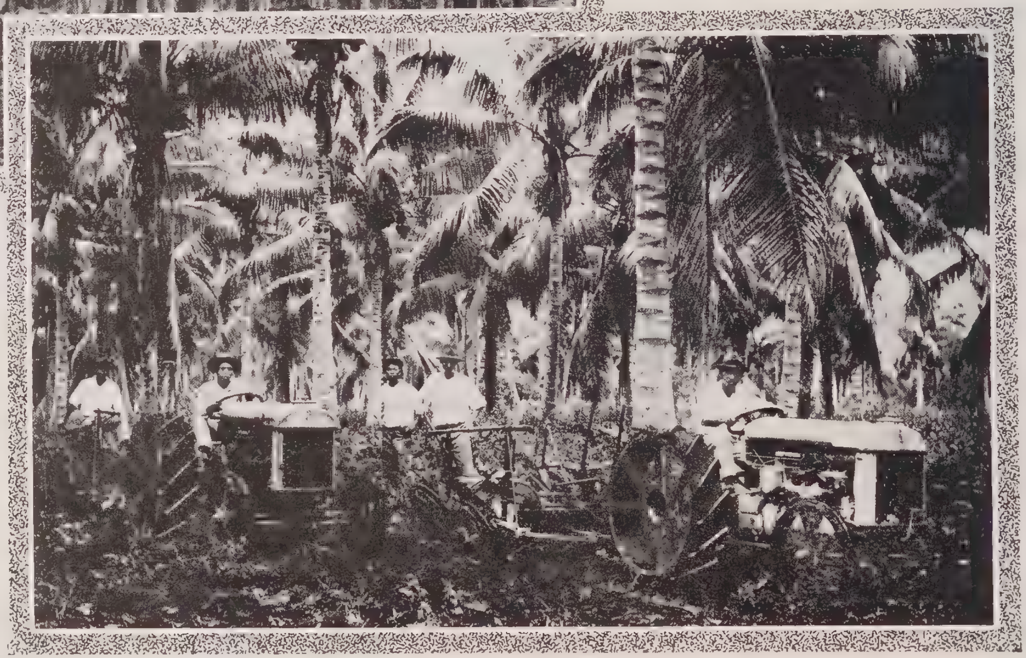
A grove of young trees

結實期を前にしたる七八年生の椰子



Grove of stately coconut trees

成育したる椰子林

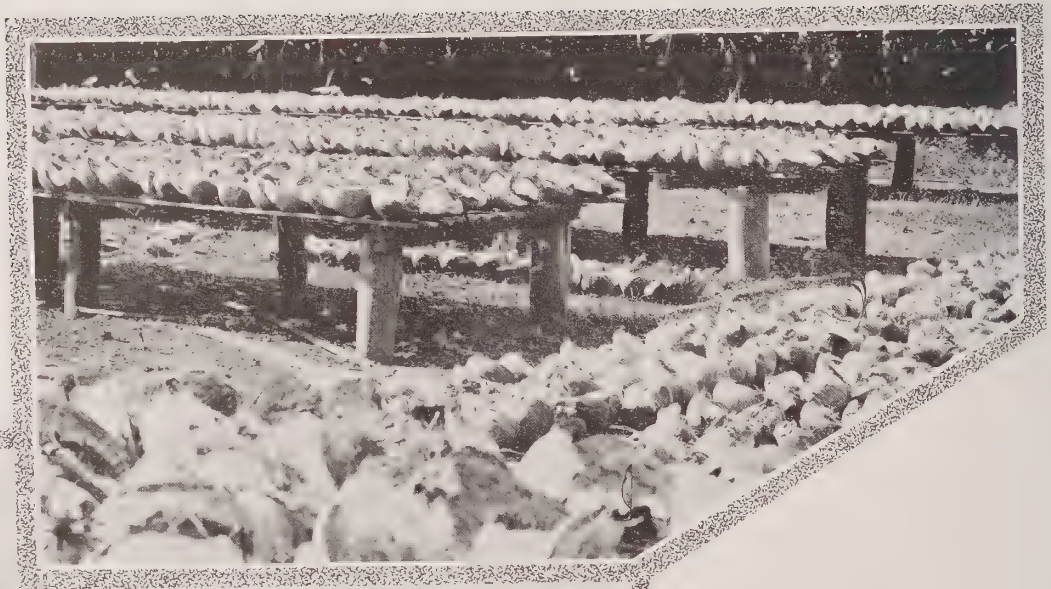


Modern method of cultivation

椰子園の鋤耕



The first bunches of nuts　　鈴なりせる椰子の實



Cutting nuts for the meat

コプラの乾燥　其一



Sanitary copra drying

コプラの乾燥　其二

Natural Features and Sceneries

一　般　の　風　物

ダバオ地方の風物を紹介するに當り、熱帶產の珍果及此地方の特產物二三に就いて其概說を試みるのも强ち從爾ではないと思ふ。

名果ドリアン (Durian) 南洋に珍果數ある中で、果實の王と稱せられ、其味を知らざる者は未だ以て南洋趣味を解せざるものなりと稱せらるるドリアンはそも如何なる味を有するか。或人は曰く其味濃厚なる牛酪に杏仁の香を加へ更にクリームチーズ、葱の煮汁、褐色シエリー酒の風味を調和したるが如しと。或は又桃、はしばみ、パイナツプル、葡萄酒、穀粉及チーズを混合調和したるが如しと讃美し、或人は又反對に山羊の臭氣に加ふるに舊き牛酪の臭氣を以てし更に腐敗せる葱と腐敗せる鷄卵の惡臭を加へ更に厠の惡臭を混じたるが如しと惡罵してゐる。然し後者は世に所謂喰はず嫌ひと稱する者の言で、初め其臭氣に恐れて頭痛嘔吐を催すと稱せし者も、試食を重ぬるに從つて惡臭變じて快感となり、遂にはドリアン讃美の一信者と化してしまうのである。一度ドリアン宗の信者となれば衣を典し財を傾けて尙且つ此實を喰はんとするに至る。蓋し云ふべからざる佳味の魔力ありて人を魅惑するからである。

ドリアンはまた頗る滋養に富み、多食する時は上氣を催し、眼球が充血するから、これを食すると同時に飲酒する事は禁物である。

マンゴスチン (Mangosteen) 此果肉は之を口に入るれば雪の如くに溶け去り、一種特有の香氣を放ち其爽快なる味ひ天下無類の佳味と稱せられてゐる。其味は他に比すべきものがないが强いて求むれば、パイナツプルと水蜜桃との美味を併せたるが如く、或は苺と葡萄との芳香を合したるが如く、尙且つ他の名狀すべからざる芳味を併有してゐる。さればドリアンを果實の王と呼ぶに對し。マンゴスチンを果實の女王と稱するは洵に故ある次第と云はなければならない。

ランサツト (Lansat) ダバオ附近に於てはランソニスと稱し、葡萄狀をなせる卵狀の漿果で、果肉は柔軟多漿で甘く酸味を有し、頗る美味にして如何に多食するも害なしと云はれてゐる。年によりて豐凶あり、此實の多く市場に現はるる時は不景氣なりなど土人は稱へてゐる。

マンゴウ (Mango) ダバオ地方ではマンガと稱し其果肉は多漿で枸櫞酸を含み、特殊の酸味を有すると共に獨特の甘味を存し甚だ美味である唯未熟又は不良種のものは稍テレビン油の臭氣を帶び一種異樣の香氣を發して初心者に嫌はれる事がある。土人は人家の周圍に之を植え大木をなして繁つてゐる。其有樣恰も日本農家の柿の木を思はせる



Delicious papaya in abundance

パ パ イ ヤ（木 瓜）



Davao grows luscious pineapples

パ イ ナ ツ プ ル



Air plant in full bloom

滿開の風蘭



Rare orchids found in jungles

蝴　蝶　蘭

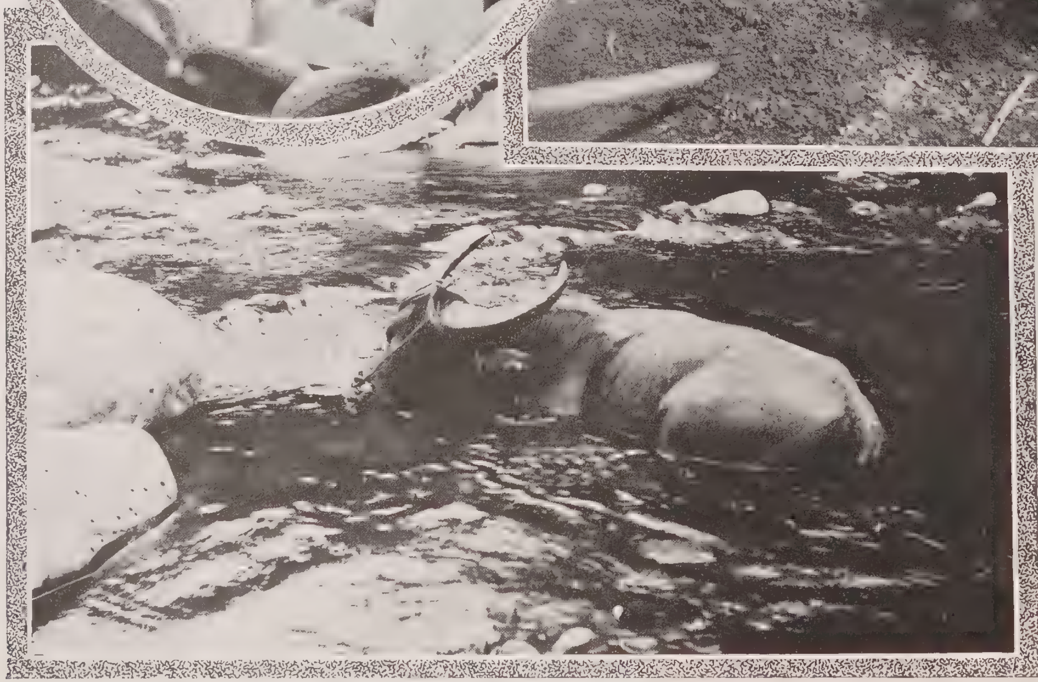
Bunches of Davao's Everlasting flowers 風蘭



Terror of the riverman

鰐





The farmer's best friend

水 牛

Mountain bucks arrayed for conquest
盛装せるバゴボ族（男）

Bagobo maids in multicolored gala dress
仝　上　（女）





Moro Datu and body-guard

モ ロ 族 (男)





Moro matron and maid

モ ロ 族 (女)



Dalıaon Civic and Social Workers

比島婦人の風俗

ナンカの木

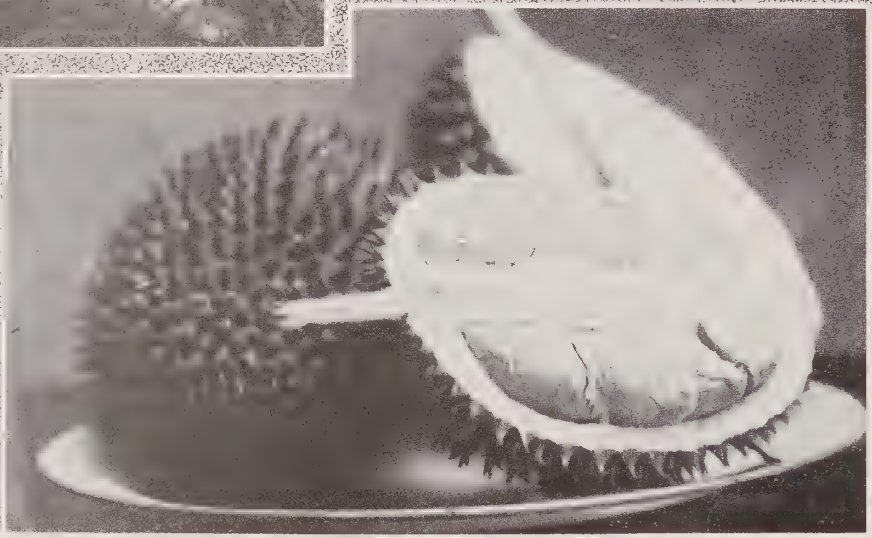


麻茸





ドリアンの木



果物の王 ドリアン

比律賓群島ミンダナオ島

ダバオ事情

附 麻耕地事情

前　　編「ミンダナオ島」

緒　　言

ダバオ州は比島南端の一大島ミンダナオ島の一州であるからダバオ事情を記するに先たちミンダナオ全島の梗概を述べる。

ミンダナオ島は今尚比較的未知の土地で、今日迄全島を洽く踏査し得た者は恐らく十指を屈するに至らざるべく而も其の多くは記錄を殘して居らず完全なる地理的調査及び測量も濟んで居ない。氣象學的及び植物學的研究も同樣僅かに部分的に調べられて居るに過ぎぬ有樣である。然しながら本島が頗る天然資源に富み、熱帶諸特產物の大量生產に適する事は專門家ならざる旅行者にも容易に觀取せらるゝ所である。

地理及歷史

ミンダナオ島は比律賓群島中第二の大島で廣さは36,906平方哩で恰も日本の北海道に匹適し臺灣の約三倍である。人口は八十萬に達せず、一平方哩當り約二十二人に過ぎない。

ミンダナオ島は實に四百前年有名なる＊マゼランが始めて比律賓群島を發見し第一に上陸したる土地なるが、以後西班牙人は常にモロ族と鬪爭し一八九八年（明治三十一年）米西戰爭の起る迄遂に完全に全島を支配することが出來なかつた。米國領有後と雖も一九一四年（大正三年）に民政が布かれる迄米國軍とモロ族との間に時々爭鬪を見たが同年にミンダナオ及スルー廳管轄の下に現在の州政を施行した。尤もミサミスとスリガオは從前西班牙政府時代より州として獨立し居たるを以て此の二州は除外せられたのである。一九一九年（大正八年）に前記ミンダナオ及スルー廳廢止され玆に始めて特別州政を布く事となつた。

氣　　候

ミンダナオ島は比律賓群島中最南に位し、氣候は他の何れよりも佳良で其北東隅を除き、ミンダナオ島の大部分は所謂颱風帶外にありて暴風の被害殆んどなく、降雨及雨量は大體に於てルゾン島及び＊ビサヤ諸島に比し年中平均且つ潤澤である。

農　　業

ミンダナオ島は頗る天然富源に豐なるに不拘他の諸大島中未開拓のまゝ殘されて居る土地が最も多い。土壤は豐饒で、あらゆる熱帶產物に適し且つ全島到る處農業的に利用し得られる。

面　　積

約9,850,000町步中農耕適地は約4,203,000町步を有するに拘はらず、

＊マガリヤネス（フエルヂナンド・マゼラン）千四百八十年頃ポルトガルのサボロサに生れ千五百二十一年四月廿七日セブに於てマクタン島民の爲めに殺さる。マゼラン海峽及比律賓群島の發見者として名あり。

＊パナイ、ネグロス、セブ、ボホール、レイテ、サマル等の總稱。

現在耕作面積は 290,000 餘町歩に過ぎぬ。今假りに 3,000,000町歩を拓き、比島七主要特產物を植付くるとして其の最小見積收獲は下表の通りである、以て本島富力の概念を得る事が出來る。

收獲物	町歩	收獲量
米	400,000	520,000噸
コプラ	600,000	600,000噸
ゴム	500,000	150,000噸
コーヒー	400,000	240,000噸
茶	200,000	270,000噸
麻	300,000	180,000噸
砂糖	200,000	1,200,000噸

林業

ミンダナオ島の森林は甚だ廣汎で且つ良材に富み、國內用に充つる事は勿論、永久に且つ多量に海外に輸出するに充分である。材木の外副林產として籐類及樹脂等の產額も相當重要視するに足るものがある。

且つ**マングローブ林**約 90,000町歩を有し、之より多量の「タンエン」を生產し得る。而してマングローブは漸次伐採に伴ひニツパ椰子を植付け行けば將來無盡藏にモートル燃料を得る事が出來る。現在にても**ニツパ椰子**は海岸線到る處にある。比律賓最大のニツパ沼林はミンダナオ島ラナオ州パンギル灣にあるものにして廣さ 9,000町歩に達する。比島科學局調査によれば此ニツハ林を以て組織的にアルコールを製造すれば每年アルコール(九十パーセント) 17,500,000リターを造り得るとの事である。今や年々モーター利用農具類トラック及自動車の輸入增加に伴ひ、ガソリン石油類の値段益々高騰しつゝある際、モーター燃料資源として此のニツパ沼林の利用は蓋し有望事業の一たるを失はない。

鑛業

ミンダナオ島にて現在試堀中に屬する主なる鑛業としてはマランガスの炭鑛、ダピタンの石油床を擧げ得るが之等が廣大なる鑛脈を有する事が證明せらるれば、ミンダナオ島否比島の發展上重大なる意義を有する事になる。

水產

ミンダナオ島の周海は亦多種の魚族に富み、將來大規模の漁業を發達しめ得るに充分である。

勞働

現今ミンダナオ島は企業注目の焦點となつて居る。土着民の勞働能率は比較的低く且其數少きを以て將來各所に大規模農業勃興の曉には勞働者輸入問題は當然起る事と思ふ。

水利及交通

ミンダナオ島には大小多數の河川あり舟行、灌漑に適するは勿論之を以て電力に利用する事も容易である。大河として有名なるはアグサン河コタバト河等である。

內地交通は未だ鐵道なく甚だ不便であるが、漸次道路も開通しつゝあり將來は各所便利の處に港灣都市等の設置を見るであらう。ダバオは大正十五年一月より開港場となつたのである。

後　編「ダバオ州」

地　理

ダバオ州は東經百二十五度九分と百十六度三十六分、北緯五度二十分より八度の間にありて、ミンダナオ島の東南隅に位する、北はアグサン州に東は太平洋に、南はセレベス海、西はコタバト及びブキドノンの兩州に依りて境界され、海岸線は六百キロメートル以上に達して居る。

面　積

七千四百八十六平方哩にして本邦の四國より稍廣い。全面積の九〇パーセント卽ち百七十四萬四百二十町歩は尙斧鉞の入らぬ處女林である。農耕適地は約百七萬餘町歩と推算されて居る。然るに既墾地は僅に十萬餘町歩にして全面積の五パーセント弱、農業適地面積の十パーセントに過ぎぬ。

氣　候

熱帶圈内にあり、春夏秋冬の區別なく一年を通して暑氣甚だしからず、溫度は六十八度乃至八十五度にして九十度以上に達することは稀である。一年を二分して乾雨兩期に分つも雨量の差尠なく平均して居る。無風帶に屬し颱風襲來の恐れがない。ダバオの年間雨量を示せば下の如し。

月次	雨量
一月	110.2（ミリメートル）
二月	141.6（ミリメートル）
三月	164.2（ミリメートル）
四月	190.3（ミリメートル）
五月	252.8（ミリメートル）
六月	234.2（ミリメートル）
七月	208.9（ミリメートル）
八月	207.4（ミリメートル）
九月	203.6（ミリメートル）
十月	242.3（ミリメートル）
十一月	176.4（ミリメートル）
十二月	208.8（ミリメートル）
合計	2,340.7（ミリメートル）

人　口

十二萬の内半數は未開の蕃人である。外國人の在住者中最も多數なるは日本人にて現今約七千人、次は支那人の二千人、歐米人は二百人に達せぬ。

產　業

主要產物は**麻**、**椰子**、**米**である。千九百二十四年度に於ける耕作面積及生產量を表示すれば下の通りである。

品目	耕作面積	生產量
米	12,840町步	240,800（カバン）
麻	41,630	22,669（噸）
椰子	11,092	1,947（噸）
玉蜀黍	2,210	24,659（カバン）
甘蔗	70	不明
煙草	100	不明
カカオ	7	2,500（キロ）
コーヒー	7	4,600（キロ）

合　計　　　67,956町步

（註、一九二六年度の開墾地面積は 106,567 町步に增加して居る。一カバンは五七キロ半）

邦人の農業會社數は四拾餘社にして其保有耕地面積は約三萬町步、內既墾面積は其三分の二に達して居る。

主要作物は麻と椰子である。邦人耕地麻の年產量は恐らく二十四萬擔（一擔は吾が十六貫餘）見當であらう。假に一擔三十比と見れば七百二十萬比である。此の外に外人の會社耕地又は比、米、西人の私有地及び蕃人の私有地に小作をして居る邦人も尠くない。

其他農業以外の產業としては製材業、漁業の如き農業と共に將來有望の事業である。

貿　易

ダバオ開港後第一年の輸出額は一千百萬比にして其品目及び數量は下表の通りである。

一九二六年度ダバオ港輸出表

品　目	數　量
マニラ麻	169,202俵（一俵は二ピクル）
コプラ	3,400噸
ゴム	1,272（キログラム）

輸入品の主なるものは米其他の食料品、日用品及日用雜貨にして、多くはマニラ或はザンボアンガを經て移入せらるゝを以て價格の計上は出來ぬが約五百萬比と推算される。千九百二十六年度のダバオ港直輸入額は二十萬比で殆んど全部日本品である。本邦品の輸入はマニラ經由の移入を併せて約八十萬比である。

商　業

輸出入貿易は殆んど日米人の掌裡にあると謂ひ得る。州內の商權は支那人の獨占する處であつたが、近來邦商の擡頭は注目に値する。

海　運

從來は千噸未滿の沿岸船が每月數回寄航せしに過ぎざりしも昨年一月開港後は米、日、英船の出入漸次增加しつゝあり大正十五年度の外國寄航船は七十隻に達した。日本郵船の濠州航路は每月往復各一回寄港し、國際汽船の貨物船も時々寄港する。灣內には大小四十餘の小蒸汽船ありて灣內の交通に當つて居る。

交　通

（道路）本州には汽車電車の便がない。しかし陸に五百有餘の自働車（客用、貨物用共）あり、海に四十餘隻のランチありて之に當り、些の不便を感じない。一等道路として雨期に於ても自動車の通じ得べき道路はダバオより西ダリアオン二十二キロメートル。これよりサンタクロースに到る二十五キロメートルは準一等とも稱すべきか。又マテよりパノンボンに到る二十キロメートル及マリタよりライスに到る八キロメートルも亦一等道路である。

私道として有名なものはタギアよりミンタル、ウラ及リバーサイド耕地に到る十二キロメートル及タギアよりマナンブランに到る五キロメートル餘の道路である。この道路の內、二キロメートルは米人會社に屬し、其他は皆邦人會社が巨費を投じ私設管理するものであつて何れも二等に屬す。

自動車數多きがため賃金の低廉なことは他に其の比を見ることができない。一キロメートル僅かに十仙。日本人の所有する自動車は約百五十臺、トラック約三十臺である。邦人運手約七十名。

河の最も大きなものはタグム河であつて、河口から二十五キロメートル、バクサバガンまでランチが通ずる。他にパダタ河、ダバオ河等は舟の便はあれども ランチの航行は不可能である。

遞　信

郵便、電信、電話＝ダバオ及マテの郵便局は設備稍整へるも其他のムニシパリテイ及ムニシパルデストリクトに於ては殆んど申譯的のものに過ぎない。

無線電信局はダバオ、マテ及マリタの三ヶ所にある。本州には有線電信はない。(但しダバオ郵便局と無線電信局との間に公用線がある)

電話は本州に於ては遞信局に屬せずして、土木局の管理に屬し架空單線である。市內線延長五十キロメートル、市外三百五十キロメートルあつて加入者は五十七名に過ぎない。又ルボンよりカテールに到る延長二百キロメートルにわたる單線がある。

私設電話として太田興業會社と各取引關係耕地間の架空單線約四十キロメートル、古川會社各支店事務所間延長二十五キロメートル、ラサン地方諸會社間約十キロメートル、マリタ、ライス間の八キロメートルである。

衛　生

群島の宗主權米國に歸して以來衛生と教育の進步は特に著しい。然るに本州に於ては、ダバオ市を除いては衛生施設の見るべきものはない。比島政府は全群島の衛生管轄區を四十六區に分ち、ダバオ州は第四十六管轄區に屬する。更に管內に三衛生區を置く卽ちダバオ、マテ、バガンガの三ヶ所で區內には數多の施藥所が設置されて居る。

ダバオ市には衛生局直轄の公立病院ありて約五十名の入院患者を收容する。又政府の補助の下に婦人會經營の Puericulture Center（育兒院）がある。市內の貧民、姙婦、病兒には無料で看護婦を派し、その診療に應ずる。私立病院としてはダバオ市に米國福音敎會のミツシヨン病院及びミンタル O. D. C. 病院（太田興業會社經營）がある。O. D. C. 病院は患者六十名收容の設備を有し、邦人の經營する唯一の病院である。

教　育

教育も米國領となつて以來銳意之れが普及に勉めて居る。今は如何なる山間に於ても小學校の設立を見ない所はない。されども兒童の就學率の如き（全群島に於て約三十八パーセント）又は田園小學校の經費の如きは我國のそれに比し尙遠く及ばない。州內の小學校數は百十六校あつて、敎員二百三十名、兒童約五千名である。その最も體制の整つたものはダバオ小學校、マンビシン小學校、マテ及サンタクロースの小學校である。

中等敎育にはダバオ市にハイスクール一校あり一九二一年の開校である。生徒約二百名にして邦人の之れに入學せるもの未だ僅か一名である。

外人の經營せる小學校（比島敎育局に屬せざるもの）としてカトリツク敎徒のパロキアルスクール（西人之を經營す）中華學校（在留支那人之を經營す）ダバオ日本人尋常小學校及ミンタル日本人尋常小學校あり共に日本人會の經營に係る。邦人就學兒童は兩校合せて約百餘名敎師六名あり、昭和六年度には就學兒童五百名に達するであらう。

金　融

銀行としては半官半民のナショナル銀行の支店あるも商業資金の短期融通をなすのみにて農業者は資金を得るの途なく、小資本の商、農其他の邦人起業者の唯一の金融機關は賴母子講に過ぎざる有樣である。

警　察

各ムニシパリテイにはポリス・ステーシヨン(警察署)あり、ダバオ市內及市外殷賑部落には多數の巡査を駐在せしむ。憲兵隊はダバオ市に司令部を置き、ダバオ、マラゴス、マララグ、キンキン、ピニヤプラタ、モンカヨ及びマテに小隊屯所ありて州內の治安を司る。

地方誌

全州を行政上二十區に分つ。區に二種ありて第一種を Municipality といひ第二種を Municipal District と云ふ。ダバオ、タグム、サンタクロース、パンツーカン、カラガ、マテ、バガンガ、マナイ、カテール等は前者にして、ギヤンガ、マリタ、カブラン、ブトラキ、サウグ、モンカヨ、コンポステラ、ルボン、シガボイ、スルブ、サマル等は後者である。何れも區名の地に區役所を置いて居る。

邦人の在留せるはダバオ、ギヤンガ、サンタクロース、パンツーカン等に最も多く、其他は各區内十名内外にしてモンカヨ、コンポステラ、サウグ等には殆んど皆無である。

ダバオ市は全州の首府にして人口約一萬四千、大部分は比島人で支那人約千人、邦人約五百人其他は小數の米人、土耳古人、印度人、西班牙人である。州廳の所在地であつて、區役所、始審裁判所、憲兵司令部、土地局、森林局、土木局、郵便局、稅關、中學校、小學校、公立病院等がある。此の地に領事館を設置せるは獨り我國のみであつて、支那は一商人を名譽領事に任命して居る。

タロモはダバオの西十キロメートルの所にある小部落であつて、海岸に太田興業會社がある。

ダリアオンには古川拓殖會社がある。

トクボクはギヤンガ區の首府である。ギヤンガ區内マナンブラン、ムリグ、バト、バヤバスには邦人の耕地が多い。邦人の大部分はダバオ及ギヤンガの二區内に住し、邦人會社四十二中二十七は此の二區内にある。

サンタクロースはサンタクロース區の首府で區役所がある。これよりデイゴスに通ずる。デイゴスの米人耕地には邦人の麻栽培請負者が多い。

パダタは椰子園多くコプラを産す。

マテは天然の良港であつて灣內風光明媚である。無線電信局がある

バガンガは早くから開けた所であつて、寺院の如き古色蒼然たるものがある。

カテールは水牛の產地である。

キンキンはダバオ灣東海岸の要地であつてパンツーカンの區役所がある。附近に數社の邦人の農事會社がある，ダバオとの間に交通が盛んである。

イホ、タグム、ラサン、ブナワン等には邦人の會社多く目下盛んに開拓中で將來有望の地方である。

テブンコには邦人の製材所がある。

マリタには米人クラマン會社及び無線電信局があつて同區の首府である。これより以南**ライス、ラワ、ラブアン、カリアン、ラミダン、ルワヨン、クラマン**等には何れも米人の耕地があつて椰子を栽培してゐる。此の地方には邦人の住するもの甚だ少い。**モグリバス、メビウ、カラハヤン、トバヨン、ヌイン、ブトラン、マラビノアン**等には太田會社の支店があつて商業を營んでゐる。此の地方からはビヤオ、アルマシガ等を多く產す。これよりコタバト州サランガニ方面に至るまでの商業權は邦人の掌握する所となり、**ブトラン**は其の中心地である。

モンカヨ、コンポステラ地方は有望なる農作地なれども目下此の地方には邦人の在住するもの又皆無である。

在留邦人及其職業

本州に在留する邦人數は大正十五年六月三十日現在の調査によれば 5,407 人とあれど、遠隔の地には申告洩れもあるべく又邦人の子にして國籍を取得して居ないものもある。且つ新渡航者月々百五十名を下らず、每月出產するもの二十名を越ゆるを以て恐らく實數は 5.407 人以上であらう。

在留民の職業は種々雜多であるが大部分は麻栽培業に從事して居る。而して鐵工業、漁業、製材業等は邦人の獨占に歸して居る。

大正十五年六月卅日現在の調査に依れば邦人の職業種別は下表の通りである

職業別	本業者	家族	職業別	本業者	家族	職業別	本業者	家族
農作	26	30	工場勞働者	51	3	官吏	2	2
麻栽培	1,415	672	豆腐販賣	7	1	僧侶	2	2
農場勞働者	1,849	104	製菓業	17	8	教育關係者	4	10
伐木勞働者	18	—	其他の飲食料品販賣	20	17	醫師	1	1
漁撈採藻	46	12	雜貨商	58	47	齒科醫、入齒師	3	2
漁業勞働者	49	3	藥品販賣	1	—	按摩	3	1
鐵工	32	13	時計貴金屬商	2	2	新聞雜誌記者	1	—
飲食及嗜好品製造	2	—	會社員、事務員、店員	223	128	通辯代書人	1	—
和洋服裁縫	10	2	旅人宿、下宿業	13	24	寫眞師	12	6
洗濯業	1	—	料理店	1	1	家事日傭人、コツク	73	6
理髮業	21	9	遊戯場、興行場	1	—	其他の勞働者	3	—
湯屋業	1	2	仲買商	4	—	行商	2	1
土木建築業	5	1	自働車運轉手	62	8	無職	14	4
木挽製材業	70	2	船舶從業者	2	—	計	4,262	1,145
大工左官	124	19	陸海運輸業	1	—	總計		
貴金屬寶石商	3	2	運搬夫	6	—			

結論

ダバオ州は云ふ迄もなくミンダナオ全島は邦人の移住地として理想的である。位置は本邦の南隣にして距離の近きこと、風土氣候も臺灣に比し遙かに良好なること、農業其他着手すべき有利の事業多きこと、殊に大中小農共に容易に且つ有利に經營し得らるゝ麻栽培の如き世界に比類なき作物を有する。

ダバオ開發の功勞は日本人なりとの說が漸次比島識者間に唱へられつゝあるは喜ばしい現象である。邦人は益々共存共榮を信條として努力すべきである。

ダバオ州に於ける邦人の保有耕地は僅かに三萬町步にして比島公有土地法は外人の公有地拂下、租借を許さぬとすれば、如何にミンダナオ島が邦人の移植地として理想的であつても發展の餘地は自ら制限されて居るではないかとは吾人の屢々耳にする所であるが、比島公有土地法は絕對に外人の土地所有を禁じては居らぬ。

一、私有地ならば外人でも面積に制限なく買收租借共に自由である

二、公有地にても比島會社法に據り農業會社を組織すれば、千二十四町步を限度として拂下又は租借が出來る。但し外國人は資本

の三割九分以上を所有することは禁ぜられて居る。
現在にても毎船渡來の邦人の悉くが邦人所有の耕地にのみ入耕しては居らぬ。米、西、比人の土地に麻栽培請負者として十五年乃至二十年の期限で生產物價格の八割五分乃至九割の報酬で一定面積の耕作に從事して居る者も尠なくない。此の方法は地主も經營上面倒尠なく、請負者も比較的有利であるから益々盛んに行はるゝ傾向がある。ダバオ州のみにても尙百萬町歩に近き豐饒なる未墾地の存在を知るものには邦人移住の餘地如何に大なるかは絮說の必要はあるまい。且つ近來比島識者は勿論、米人のミンダナオ島富源開發に對する研究は頗る眞劍味を帶びて來た。ダバオ邦人の有する價値ある產業的經驗が有利に利用さるゝ時期の到來する事も蓋し遠くはあるまい。（完）

〔以上ダバオ日本人會發行のダバオ事情による〕

麻耕地事情

麻挽請負の收得

新渡航者は耕地勞働に慣れるまで最初數ヶ月間は麻畑の草取其他の雜役等簡單なる作業に從事するのが普通である。草取は最初の月給二十五比乃至三十比（食費及宿舍は主人持ち）で請負は月約六、七十比（食費を含んで）である。勞働に慣れるに從つて麻挽をするのが最も有利である。麻挽は手挽卽ち人力に因るものと水力又は火力を利用するものと二つの方法があつて、動力を利用する方は手挽に比し一人當りの收入が遙かに多い爲め、近來日本人の耕地では殆んど全部水力又は一馬力半乃至三馬力位の石油發動機を利用してゐる。

麻挽の作業を細く說明しても實情を知らぬ人には却て解し難いと思はれるから、現今普通に行はれて居る動力利用の請負挽に因る勞働收入を簡單に說明すると、請負挽は三人一組の請負法で、一人は挽手となり他の二人は挽出すべき麻の切倒し其他の作業に當るのである。

麻挽機械は其構造簡單で熟練容易である。勞働者は單に麻挽出しの介添をすればよいので、從來の手挽に必要な腕力に動力を代用するから、勞力を要すること尠なく能率を發揮してゐる。三人乃至四人一組で一ヶ月の生產量は三十擔乃至三十五擔（一擔は十六貫餘）で機械と麻は無償で、生產麻を當時の相場に換算して契約分割に依り勞働賃金として分配を受けるのである。契約分合は麻相場の高低耕地の便不便に因り一定しては居らぬが標準率とも云ふべきものは耕主六分乃至四分勞働者四分より六分見當である。昨今は普通耕主六分勞働者四分である。今此割合で請負者が月三十擔を挽いたとして麻相場一擔三十比で換算すると請負者一組の收得高は月三百六十比になるから三人組で一人當り百二十比、四人組で一人當り九十比の收入あることになる。生活費は自辨であるが一ヶ月十五比乃至二十比位で充分である。今各相場により三人一組の一ヶ月一人當りの收入を表示すれば下の樣になる。（但し請負分合を四分として）

一擔の相場	一人當り收入	一擔の相場	一人當り收入
25比	100比	36比	144比
26〃	104〃	37〃	148〃
27〃	108〃	38〃	152〃
28〃	112〃	39〃	156〃
29〃	116〃	40〃	160〃
30〃	120〃	41〃	164〃
31〃	124〃	42〃	168〃
32〃	128〃	43〃	172〃

33″ …………132″　　44″ …………176″
34″ …………136″　　45″ …………180″
35″ …………140″

（註） 比貨一比は米貨一弗の半分

麻畑請負と自作

前の請負方法は單に纖維の挽出しのみであるが、更に一定區域の麻山を數年間耕作除草挽出迄併せて請負ふ方法もある。是を麻畑請負と稱して居る。此方法は四人一組となつて十八町步位の面積の旣成麻畑を請負ふのである

更に進んだ方法は耕主直營の麻山又は麻自作者から麻山を買ひ取つて自作者になる事である。歐州大戰當時の好況時には一株二比もした事があり、また其後の恐慌時代には二十仙以下の事もあつたが昨今の相場は一比內外である。此賣買相場は麻山の成育狀態、樹齡の如何其他種々の條件に因つて決定するもので一律に行かぬ事勿論である。好値の場合は別として麻一擔三拾比位の時は假に日本人一組で一株八十仙の割で十年間、年產平均二十擔（一町步卽ち一千株につき）の生產力を有する麻山壹萬八千株を買入れ地主に一割五分の小作料を支拂ふとして收支計算を示せば大約次の通りになる。

旣成麻一萬八千株（十八町に植栽せるもの）**を買取りたる自作農十年間の收支**（四人組にて）

年度	收入	摘要	支出	摘要	收入超	支出超	累計
第一年度	比 10,800.00	年產額三百六十擔 一擔三十比替	比 14,400.00	麻山 18,000 株 八十仙替買入代			
			500.00	麻挽機械設置費			
			500.00	住宅建築費			
			100.00	農具食器等買入代			
			1,080.00	鋤耕除草費			
			1,620.00	小作料一割五分			
			360.00	機械用消耗品費			
			816.00	食費四人分			
合計	10,800.00		19,376.00			8,576.00	收入 8,576.00
第二年度	10,800.00		3,876.00	經營費 {小作料 鋤耕料 機械 食費}			
合計	10,800.00		3,876.00		6,924.00		超支 1,652.00
自第三年度 至第十年度	86.400.00		31,008.00		55,392.00		出超 53,740.00
平均 一人當り純收入總額（十年間）							13,435.00

以上の利益計算のほかに資產として麻山一萬八千株、一株三十仙として五千四百比を所有することになる。

原始林の開墾と麻自作

成功の順序としては最初は先づ麻山で勞働者として働き實地の體驗と相當の資金を得てそれから獨立して麻栽培をやることである。本當の收益は麻自作をやらなければ得られない。未墾處女林は邦人諸會社所屬のものだけでも尙一萬四、五千町步ある。且つ米人も土人も地主は皆日本人の自作農を希望してゐるから新墾する土地なれば幾らでもある。開墾は日本流にするのではなく頗る容易である。麻は植付後十八ヶ月で挽ける樣になるが開墾に四、五ヶ月を要するから開墾に着手してから挽けるまでには滿二ヶ年を要する。(開墾の秘訣參照)

處女林を拓いて麻栽培を自作するとしての收支計算を示せば次の通りである。

處女林十八町步新墾自作農の收支概算 (四人組にて)

年度	收入	摘要	支出	摘要	收入超	支出超	累計
自第一年度 至第二年末間	比 5,760 00	四人の勞力を各一人一ヶ月六十比と見て二ヶ年分通算	比 6,300 00	處女林18町步開墾麻18,000株植付 之が成熟期に達する迄の諸經費一町步當り350比			
			500 00	麻挽機械設置費			
			1,000 00	住宅建築費			
			100 00	農具食器其他の雜費			
			1,600 00	二ヶ年間四人分食費			
合計	5,769 00		9,532 00			3,772 00	支超 3,772 00
第三年度	13,500 00	生產麻千株平均二十五擔三十比替	2,025 00	小作料一割五分			
			450 00	麻挽機械消耗費			
			816 00	食費四人分			
			1,080 00	鋤耕除草費			
合計	13,500 00		4,371 00		9,129 00		入超 5,357 00
自第四年度 至第十年度七年間通算	94,500 00	生產麻代 千株平均二十五擔三十比替	30,597 00	經營費(小作料 鋤耕 機械 食費)			
合計	94,500 00		30,597 00		63,903 00		入超 69,260 00
一人當り 純收入總額(十年間)							17,315 00

以上の利益計算のほかに麻山一萬八千株、一株五十仙として九千比を所有することになる

(註) 自第一年度 至第二年度末 二ヶ年間の收入5,760比は支出の部の6,300比に含んでゐる。6,300比－5,760比 540比は一萬八千株の種代である。(但し種代一個三錢として) 即ち實際の場合は收入及支出の兩方から各5,760比を引去つて考へてもよい。

〔以上海外興業會社調べ〕

麻 山 開 墾 の 秘 訣

草をはやさぬ事

熱帯地で何を栽培するにしても此雜草程恐るべきものはない。此恐るべきものである事を知れば先づ開墾の第一要諦を會得した者と云つてもよい。

肥料をやつたり鋤耕をしなければならないものなら色々面倒もあるが、そんな事は全然いらない。またそんなことをしなければ麻が育たぬ様な土地なら初めから開墾せぬ方がましである。

要は草取りの巧拙如何にある。それでは話は甚だ簡單で、朝から晩まで草取りを一生懸命にやればそれでいゝわけであるが、扨て實際に當つて見るとさう簡單にはいかぬ。同じ廣さの土地を開墾しても、甲の人は一週間に一日働く丈けでいつも奇麗に草取りが出來て麻はどんどん勢ひよく育つて行くのに、乙は毎日暗いうちから畑にでて日の暮れるまで腕の續く限り根限り働いて而も草を取り盡せず麻は瘠せていつまでたつても挽ける様にならない。一體どうしてこんな事になるか、乙は開墾の要領を知らなかつたからである。新渡航者は是非共以下記す處を讀んで同じ失敗を繰り返さぬ様にして頂きたい。

土地の撰定

ダバオ地方はマニラ麻の好適地ではあるが草原、排水の出來ない濕地、石の多い土地、凹凸の劇しい土地等は之を避けなければならない。而して土壤深く緩傾斜をなし大木の繁つてゐる處女林を撰ぶべきである。

開墾の時期

扨て土地の撰定が出來たら次は開墾の時期であるが、これを誤れば徒らに勞多くして効少い事になる。ダバオ地方は大體に於て、一年を通じて氣候の變化はないが、その內でも三月の始めから四月の末までが一番暑い雨の少ない時期であるから、此期間に、伐倒した木を充分乾燥させて燒拂ふ様に準備をしなければならない。此時季なら伐木後一ヶ月乃至一ヶ月半も經てば充分燒ける様になるから二月の末までに伐木作業を終つて置けば申分はない。然らばいつから開墾に着手したらよいか。これは事情の許す限り(人手があれば)短期間にやる程よい。三ヶ月もかゝつてゐると最初に伐倒した部分には雜草や木の芽が出て來て再び之を刈取らねばならぬ様になる。故に先づ二ヶ月以上はかゝらぬ様にする。從つて正月の始めから着手すればよいことになるのは以上の說明に依つて明かである。人手があれば二月の始めから着手して二月の末までに終る方が一層好結果であること亦勿論である。

伐木の要領

下拂ひ、中木伐り、棚木伐りの三段に分けてやるのであるが何れも丁寧にやるのが良い。大きい木は伐倒したならばすぐに枝を切り落して、なるべく地面に近付けて置く方が大いに後日の手數を省く事になる。

燒 拂 ひ

伐木後一ヶ月以上炎天に曝したら、晴天の續いた時を見計らつて風下から火をつけて燒拂ひ、燒け殘つた木や枝は最寄の場所に積重ねて所謂寄せ燒せをする。これも後日の草取りが樂に出來る様に、なる丈

け丁寧にやる必要がある。

植付け

良種類を撰び悪種類を混入せぬ様に注意することは勿論であるが、建全な芽のあるものを撰み多少手間は掛つても、植えた種は必ず生える、と云ふ確信をを以て丁寧に植付くべきである。

草取り

扨て愈々問題の除草であるが、麻は種付けてから十八ヶ月目に收獲期に這入つて其頃になれば上部が繁つて地面を蔽ひ隱すから草は生えない樣になるが、それまでは絕えず草と戰はねばならぬ。此永い間の戰ひに打勝つ爲めには最初の注意が肝心である。燒拂ひがうまくいつた開墾地でも二十日乃至三十日も經てば一面に草の芽が出て、其後二週間も經てば實が生つて無數の種をばら撒くものさへある。斯うなつては如何に車輪になつて奮鬪しても、草は殖える一方で遂に敗戰の憂目を見る事になる。卽ち燒拂つてから屢くの間は草が生えないからつい油斷して取返しのつかぬことになつてしまうのである。

草取りの要領は此始めの第一步にあるのである。燒拂つてしまつたならばもう草に對して油斷は出來ない。よく注意して見なければ見えない樣な小さい双草のうちに刈取つて、是非共一週間以內に全部を終る必要がある。斯くして三四回も之を繰返せば、始め一週間かかつた處は六日になり五日になつて、だんだん草取りが樂になり、一週間に四日も働けば一人で五六千株卽ち約五町步の畑を奇麗にして行ける樣になる。

五町步の開墾地で草取りをして步く面積はどの位あるかと云ふと、植付けた麻の間隔を九尺とすれば一間半道路と見て其延長約五里と云ふ事になる。この五里の道に一面に草が生えてゐるとしたら一人手で一週間は愚、二十日或は三十日掛つたつて取り盡せるものでない事は容易に肯かれるわけである。從つて全部の草取りが終らぬ內に、最初に取り始めた部分には最早一面に草が生えて實を結び幾百萬の種をばら撒いてゐるから第二回目以後の草取りは更に一層困難になるわけである。

一體惡い草程繁殖劇しく双葉が出てから二週間目にはもう種がこぼれてゐる。これを防ぐ爲めには是非共一週間以內に取盡さなければならない。最初三四回目迄はかなり一面に生えるから人手をかけても取盡す必要がある。斯うして絕えず廻つて居れば、假令見落しがあつても次の一週間以內には必ず刈取られてしまひ、開墾地に生えた草からは種を生ずる機會がないからだんだん草の生え方がまばらになつて、遂には彼處に一本此處に一本といふ樣になり、普通道路を步く時の樣な速さで草取りをして行く事が出來る樣になる。

此處まで漕ぎ着ければ一人で一日に一里や二里の草取は易々たるもので、五町步位の土地は三日か四日働けば充分であるから、他の一日二日は菜園の手入れや庭の掃除や或は食糧品の仕入れ等に充當し、日曜日は休んで常に餘裕綽々として麻山を奇麗にして行く事が出來る樣になる。

扨て愈々斯樣になつても草の種は決して絕えない。これは風や鳥獸や人間などと云つた樣なものが仲介となつて持運んで來るからである。然し之は開墾地に生えた草から落ちる種に比すれば問題でない程少數であるから、常に草取りは「**みのらぬ內に刈取れ**」と云ふ一句を標語として每週必ず隅から隅まで完了することをお勸めする次第である。

附　　　　録

ミンダナオ島各州地積種別表　（一九二五年比島森林局調査）

州名	有用材森林地（町步）	雜木森林地（町步）	草原地（町步）	農作不適地並に沼澤地（町步）	既墾地（町步）	合計（町步）
スリガオ	548,406	22,260	10,610	125.150	41,825	748,251
アグサン	961,830	74,965	14,595	2,821	57,935	1,112,146
ミサミス	275,722	835	14,894	165,455	10,324	467,230
サンボアンガ	1,320,233	65,132	78,924	157,002	31,906	1,653,197
ラナオ	393,145	25,970	50,730	153,021	9,090	611,965
ブキドノン	326,905	32,918	279,443	163,028	19,580	821,874
ダバオ	1,063,961	711,597	48,535	8,214	106,567	1,938,874
コタバト	1,960,530	39,685	72,640	404,595	14,130	2,491,580
合計	6,850,732	976,371	570,371	1,159,286	291,357	9,845,108

ミンダナオ島各州に於ける農耕適地面積表　（一九二五年比島森林局調査）

州名	既墾地（町步）	未墾地（町步）	農耕適地（町步）	總農耕地に對する既墾地割合
スリガオ	41,825	231,051	272,876	15%
アグサン	57,935	379,390	437,325	13%
ミサミス	10,324	126,756	137,080	8%
サンボアンガ	31,906	498,993	530,899	6%
ラナオ	9,090	87,593	566,830	1%
ブキドノン	19,580	407,855	427,285	5%
ダバオ	106,567	965,718	1,072,285	10%
コタバト	14,130	1,244,295	1,258,425	1%
合計	291,357	3,941,651	4,233,008	7%

ヒリッピン群島現勢一覽

人　口

1918年（國勢調査）…… 10,314,310人
1925年（國勢調査）…… 11,868,300人

内譯（1918年國勢調査）

基督教比律賓人…… 9,381,357人
同教、佛教、異教比律賓人…… 932,953人
米國人…… 5,803人
西班牙人…… 4,032人
英國人…… 1,202人
支那人…… 44,239人
日本人…… 8,294人
其他の外國人…… 979人

土　地

島嶼の數…… 約3,000
面　積……29,629,600町歩
（115,026平方哩）
農耕適地……16,049,182町歩
既墾地（1925年度調査）…… 3,712,712町歩
農耕適地と總面積割合……5割4分（日本1割8分）
有用材森林…… 5,705,669町歩

氣　溫……（1925年度に於けるマニラ溫度）
最高88度7分、最低72度9分
州の數…… 49
自治町村の數……829
國富見積價格（1923年度）…… 5,495,482,000比

教　育

公立學校數……7,789
學生數…… 1,130,366
學齡者と就學割合…… 3割8分强
教員數…… 26,151
内米國人……322
私立學校數……676
學生數…… 82,526
教育費（國庫支辨）…… 27,678,414比
同　人口一人當り……2比33仙

出産と死亡率

年度	出産率	死亡率
一九二〇年	% 32.71	% 18.70
一九二一年	33.27	18.78
一九二二年	33.42	18.20
一九二三年	33.81	17.80
一九二四年	33.45	18.82

日刊新聞發行數 (1925年度調査)

總發行數……………………………………111,865

內譯

西語	36,097
英語	28,098
土語	31,931
西及土語	3,416
其他	12,323

財政

歳入(1926年度豫算)……………………70,001,850比

歳出(1926年度豫算)……………………69,082,248比

公債(1925年末に於ける公債支拂準備積立を差引たる殘高)……………136,430,640比

人口一人當り公債負擔額(1925年度)……………11比11仙

人口一人當り納稅額(1925年度)………………7比38仙

人口一人當り通貨流通額(1925年度十二月末)………11比42仙

郵便貯金額(1925年度)……………………5,882,641比

貿易 (1925年度)

輸出入總額……………………………………537,220,077比

內譯

第一位	米國	356,685,049比
第二位	英國	35,946,435比
第三位	日本	33,625,552比

農産 (1925年度調査)

種目	耕作面積	産額
椰子	472,050町步	71,847,980比
麻	477,110	64,296,246
砂糖	239,470	112,729,900
烟草	71,630	11,891,590
米	1,025,500	192,179,270
玉蜀黍	522,380	30,767,250

林産

有用材森林面積……………………………5,705,669町步

立樹量…………………200,000,000,000ボールドフヒート

1925年度伐木量…………………368,871,396ボールドフヒート

の內約五分の三海外輸出

交通

鐵道哩數……………………………1,272キロメーター

壹等道路………………5,664キロメーター(自動車通行路)

歷史

西曆二〇〇年…………一三二五年

印度、支那、スマトラ、ボルネオに於ける Hindu Malayan 國に隷屬す。

西曆一三二五年……一四〇五年

Hadiapanit の瓜哇王國領に屬す。

西暦一四〇五年…………一四四〇年

支那「明帝」に征服せらる。

西暦一四四〇年…………一五六五年

北部呂宋は日本及支那海賊の跳梁に委しマニラ以南はボルネオに隷屬。

西暦一五六五年…………一七六二年

西領メキシコを通し全群島西班牙に歸屬す。

西暦一五九二年………… 一六二四年

無侵略を條件として日本國將軍秀吉に朝貢す。

西暦一七六二年…………一七六三年

一時英吉利の略奪する所となりしも恰も歐洲七年戰爭終了に際し巴里條約に依り西班牙領に復歸す。

西暦一七六三年…………一八九八年

西班牙統治下に屬す。

但し一八二一年迄は西領メキシコの管轄に屬せしも以後は西班牙本邦の直屬となる。

西暦一八九八年以降

米國の領有に歸す、米國の宣明せる領有理由「米國は西班牙の苛政より比島民を救ひたり故に之を再び西班牙に還附し又は他に讓渡するを得ず然るに比島民の現状は尙獨立自治の能力を有せざるを以て其の時期の到來する迄之が傅育の任に當るは米國の義務とする所なり云々」

米領となりて以來の政治的沿革

西暦一八九八年…………一九〇一年

軍　　政

西暦一九〇一年…………一九〇七年

米國大統領任命の委員政治。

西暦一九〇七年…………一九一三年

米國大統領任命の委員（米人過半）及民選議院政治委員は立法行政の兩權を有し民選議院の權能は局限せられ單に立法諮詢機關たるに過ぎず。民選議院の設置せらるゝや議員より代表者二名を選び常置委員としてワシントンに註在し米國上下兩院に於て發言權を附與せらるゝも投票權を有せず常置委員の費用は米國々庫より支辨せらる。

西暦一九一三年…………一九一六年

大統領任命委員（比島人過半數）及民選議院。

西暦一九一六年以降

ヂョンス法の下に立法機關として上院（セネート）下院（アセンブリー）を設置し比島總督は米國大統領の任命に因り最高行政官たると共に兩院通過の法案に對し不裁可權を有す但し絕對的のものにあらず。

〔以上ダバオ日本人會發行ダバオ事情による〕

過去拾ケ年「F級」アバカ相場高低表 （マニラ相場）（太田會社調べ）

		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
1917	最高	比 36.00	比 37.00	比 39.00	比 47.00	比 49.50	比 56.50	比 50.00	比 52.00	比 52.00	比 52.00	比 51.00	比 55.00
	最低	34.50	35.00	35.00	39.00	47.00	49.50	46.00	48.00	45.00	48.00	50.00	51.00
1918	最高	57.00	51.50	52.00	51.25	—	48.00	47.50	42.75	42.50	45.00	44.50	—
	最低	55.00	51.00	51.50	51.25	—	46.00	42.75	42.75	42.50	43.25	41.50	—
1919	最高	36.00	43.00	—	37.00	34.50	33.00	34.00	31.00	32.00	40.00	40.00	42.00
	最低	32.50	36.00	—	33.00	32.00	35.00	30.00	29.00	30.00	32.00	38.00	38.50
1920	最高	53.00	54.00	52.00	50.00	51.00	47.00	48.00	45.50	46.00	41.00	31.00	28.00
	最低	43.00	52.00	45.00	47.00	47.00	40.00	41.00	43.00	44.00	31.00	27.00	25.50
1921	最高	31.00	24.00	19.00	23.50	19.00	17.00	16.00	14.00	16.00	17.00	16.00	17.00
	最低	23.00	18.00	16.00	19.00	17.00	16.00	14.00	13.00	13.00	14.00	14.50	15.50
1922	最高	19.50	17.25	16.00	15.00	14.00	15.00	15.00	15.25	15.75	16.25	18.25	23.00
	最低	17.00	14.50	14.00	13.75	12.50	13.00	14.50	14.50	15.75	15.50	16.25	18.25
1923	最高	25.00	25.50	27.00	21.50	24.50	24.75	25.00	23.00	18.00	18.50	21.00	25.00
	最低	22.00	24.50	25,50	23.00	23.50	23.00	23.00	16.00	17.00	17.25	19.50	21.50
1924	高最	25.50	25.50	25.00	24.00	24.25	24.00	25.75	27.50	36.00	38.50	39.50	43.00
	最低	23.50	24.00	23.00	22.00	22.00	23.00	24.00	25.00	27.50	36.00	36.00	40.00
1925	最高	49.00	50.00	55.00	49.00	47.00	38.00	43.00	43.00	44.50	45.00	43.50	44.00
	最低	44.00	45.00	48.00	47.00	40.00	33.00	34.00	40.00	43.00	42.00	41.00	43.50
1926	最高	46.00	44.00	38.50	33.50	34.00	32.00	35.00	38.00	40.00	41.50	43.50	44.00
	最低	44.00	38.00	30.00	32.00	28.00	28.00	32.00	36.00	36.50	38.00	41.00	43.50

渡 航 費 用 概 算

海外興業株式會社の手を經て移民として渡航する場合の費用を擧ぐれば下の様になる。

（イ）日本からダバオに直航する場合（日本郵船會社濠洲航路）

1. 旅券印紙代……………………… 5.00圓
2. 米國領事査證料十弗…………22.00
3 入國税八弗……………………18.00
4. 船賃横濱から…………………67.00
5. 見せ金（六十比）……………70.00
6. 乘船地手荷物運搬費…………….70
7. 乘船地滯在費…………………10.50（一日一圓五十錢七日間見積）
8. 會社手數料（十二歳以上）……35.00（內申込の際五圓前納）
9. 內地小使支度料………………50.00

合　　計　　278.20

上陸の時見せ金を持つて居ないと上陸を許されないから其時懐の金を見せる丈けで、此金で上陸に要する諸費、人頭税及道路税、手荷物運搬費、宿屋支拂、耕地までの自動車賃等合計約十圓を支拂ふことになる。

（ロ）マニラ乘繼の場合

船賃横濱マニラ間 ……………………………………………… 43.00
共他は（イ）と同様で合計…………………………………… 211.20
合　　計　　254.00

但し此場合は見せ金を以て次の如く支拂ふものとす

マニラ上陸及乘換に要する手荷物運搬費（手荷物二個）……
…………1.50比
人頭税及道路………………………………………………………… 2.00
マニラ滯在費二目乃至七日間（宿料一日二比、上陸手續二比）
…………12.00
マニラ、ダバオ間汽船賃 ……………………………………… 30.60
ダバオ上陸に要する諸費（手荷物運搬費、宿屋支拂、耕地までの自動車賃等）………… 8.00
合　　計　　54.10

◈特にザンボアンガに上陸するものは（郵船濠洲航路の內三島丸だけザンボアンガに寄港す）

横濱からザンボアンガまでの汽船賃は六十一圓、神戸が五十九圓、長崎から五十五圓で共他は（イ）の場合と同様である。

但見せ金を以て次の如く支拂ふ。

ザンボアンガ上陸に要する手荷物運搬及手數料約……… 2.00比
人頭税及道路税…………………………………………………… 2.00
ザンボ、ダバオ間の運賃……………………………………… 11.40
ダバオ上陸に要する諸費………………………………………… 8.00
合　　計

附記　此地方の移民は東京市麹町區有樂町一丁目一番地仲通二號館內、海外興業株式會社に於て取扱ひダバオ上陸後は日本人會の人が出迎に來て一切の手續及就職等の世話をすることになつてゐる。

〔以上海外興業會社調べ〕

貨幣度量衡其他

貨幣　は米貨二分の一弗を以て一比(ペソ)とし、日本の一圓餘である。

度量衡　は多くメートル法を採用すれども其他のものをも混用す主なるものを擧ぐれば、

メートル……………………………三尺三寸	バラ……………………………二尺七寸餘
リツトル…………………………五合五勺强	ガンタ(三リツトル)………一升六合六勺强
ヘクタリヤ(百米平方)……一町二十五步	キログラム(1,581カテ)…　二百六十六匁强
ピクル(1擔卽63.25瓩)…十六貫八百六十六匁强	カテ(一擔の百分の一)…百六十八匁强(一斤餘)

ベール…………麻二擔を纒めて俵裝したもので日本人は之を一表と呼んゐでた。

標準時差

マニラ正午…………………………東京午後一時。

初版發行　大正十五年九月十一日
第二版發行　昭和二年正月十日
改訂第一版發行　昭和三年六月十五日
改訂第二版發行　昭和四年五月十五日

不許複製

東京市牛込區矢來町六十八番地
編輯者　田名部道雄

比律賓、ダバオ、ダリアオン
發行者　中野晴雄

東京市神田區錦町三丁目十九番地
印刷者　田中文藏

東京市神田區錦町三丁目十九番地
印刷所　集美堂印刷所

定價金　　也

比律賓、ダバオ、ダリアオン
發行所　中野寫眞館